

20世紀

どんな時代だったのか

本紙連載中の「20世紀 どんな時代だったのか」の検証レポートと並行して、歴史の激流を生きた人間ドラマや座談会などの特集を原則として月曜に掲載しています。

戦争や武力紛争の際に繰り返される「女性への性暴力」。第二次世界大戦でも戦場や占領地で相次いだがほとんど不問に付された。しかし、国際社会では一九九〇年代になって、「女性への重大な人権侵害」との認識が高まってきた。旧ユーゴスラビアとルワンダの内戦では、集団レイプや大量虐殺を非難する世論が巻き起こり、国

連は国際法廷を開き、性暴力を「人道に対する罪」として裁いている。七二年には、今世紀の懸案だった常設の「国際刑事裁判所(ICC)」の設立が決まった。大戦から半世紀、戦時下の性暴力被害への積極的な取り組みが始まっている。

これまで覆い隠されてきた戦争と性暴力の問題をめぐり、世界各国の女性NGO(民間活動団体)の間で新しい動きが出てきた。これが女性の人権問題としてクローズアップされたのは、一九九〇年代の国連会議を通じて女性NGOが声を上げ、その支援のもとで、各国の被害者の女性たちが半世紀の沈黙を破り始めたからだ。

95年の国連世界女性会議の行動綱領には、「戦時下のレイプ、強制売春など女性へのあらゆる暴力について十分調査し、犯罪者を訴追し、被害者に十分な補償をする」と明記された。

今年6月、東京で「『戦争と女性への暴力』日本ネットワーク」(代表・松井よりアジア女性資料セン

「平時の差別の表れ」

女性NGO

過去の事件も追及へ

ター代表)が発足した。二〇〇〇年12月には、韓国、中国、フィリピン、米国などのNGOと協力して、女性の視点から東京裁判やBC級戦犯裁判を見直し、性暴力を戦争犯罪として裁く「女性国際戦犯法廷」を東京で開く予定だ。

国際刑事裁判所(ICC)は条約採択前の事件については審理しないが、女性たちの法廷では過去の事件も取り上げる。ここで出た結論は、国連や各国政府へ要望書として提出する。

「戦時下の性暴力は、平時の社会でも根深い女性差別の極端な表れ」ととらえる同ネットワークは、家庭内暴力やセクシュアルハラスメント(性的嫌がらせ)など日常的な性暴力のない社会づくりを目指している。

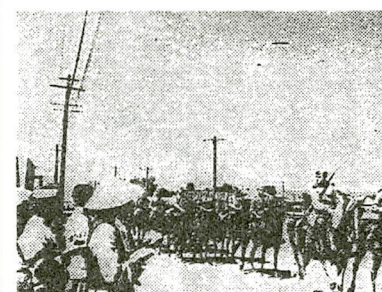
戦争と性暴力

日本の敗戦直前の四五年八月九日、参戦したソ連軍が満州現中国東北部に侵入した。満蒙開拓団の男たちは古く集まれば女性と子供、老人、病弱な男性を残して、関東軍はすでにソ連との国境地帯から撤退しており、女性たちは雨期でぬかるんだ道や野山をばたきながら、悲惨な逃避行を余儀なくされた。こうした状況下で、ソ連兵は性暴力を加えた。取材に応じてくれた中国残留婦人たちは口々に

● 敗戦前後の旧満州

に、収容所で味わった恐怖を訴えた。黒龍江省の東部、依蘭の収容所にいたとある七十三歳の女性証言によると、「複数のソ連兵が昼も夜もやってきて、肌を寒さよりも恐ろしかった。若い女性たちは頭を丸め、顔に泥を塗って、男を装った。すると、体は触って確かめるようになってきた。外でも平気で裸になってきて、毎日、首をつる人が出ました」

ソ連兵の乱暴は、国境付近以外のところでも見られた。吉林省通化市在住の日本人女医、白沢(日本名・波多野八重子)さん(75)は敗戦直後、日本人が経営する大連の病院で産婦人科助手をしていた。四六年一月ごろ、二十代前半の娘二人を伴った母親が来訪した。娘二人の顔には淡紅色の発疹が広がって、一目で梅毒とわかった。母親は「敵軍に戸籍簿を渡していたのに、ソ連兵は統



一九四五年八月、ソ連軍は満州に侵入した(タス)

で窓をたたき割って入ってきた」と泣き崩れた。その二年後、引き揚げの前日、二人とも赤い襦袢に身を包み、ふたつの中で自ら命を断った。白沢さんの目には、今も、血まみれの姿が焼きついてる。「あの娘さんたち、あんな病気に罹る必要なんてなかったのに……」と唇をかんだ。

だが、東欧出身者からは「ポーランドに連行したドイツ兵によるユダヤ女性への乱暴、強制収容所で日常的に行われたレイプを目をふってはいられない」との批判も出た。その一方、四二年ごろドイツ占領下のソ連領では、ドイツ兵に性交渉を強要された貧しいロシア女性たちが妊娠、スタリン時代には中絶が禁止されていたので、出産するしかなかったとの記録(独国防務総司令部少佐のメモ)もある。

屈辱と絶望……消せぬ悪夢の記憶

第二次大戦中と戦後の混乱期における国内外の実態は、以下に示す。

● 戦時下のアジア

ソウル市内で、元「従軍慰安婦」への補償を求めてデモをする数千人の修道士たち(95年、ロイター)



「慰安婦」問題で、元「従軍慰安婦」の一人が、慰安所をめぐってデモをする数千人の修道士たち(95年、ロイター)

人道に対する罪 遅過ぎた裁き



「人道に対する罪」の遅過ぎた裁き

第二次大戦後、史上初の国際軍事裁判として、日本の戦争犯罪人を裁く「東京裁判」と、ドイツの戦争犯罪人を裁く「ニュルンベルク裁判」が、戦後十数年の間に開かれた。この二つの裁判は、戦時下の性暴力被害者に対する裁きが遅過ぎたという批判を受けて、戦時下の性暴力被害者に対する裁きを求める声が高まっている。

● 占領下の日本

第二次大戦後、戦時下の性暴力被害者に対する裁きを求める声が高まっている。戦時下の性暴力被害者に対する裁きを求める声が高まっている。戦時下の性暴力被害者に対する裁きを求める声が高まっている。



藤田久一・神戸大学教授(国際法)

「国際刑事裁判」条約、大きな前進

第二次大戦後、史上初の国際軍事裁判として、日本の戦争犯罪人を裁く「東京裁判」と、ドイツの戦争犯罪人を裁く「ニュルンベルク裁判」が、戦後十数年の間に開かれた。この二つの裁判は、戦時下の性暴力被害者に対する裁きが遅過ぎたという批判を受けて、戦時下の性暴力被害者に対する裁きを求める声が高まっている。

第二次大戦後、戦時下の性暴力被害者に対する裁きを求める声が高まっている。戦時下の性暴力被害者に対する裁きを求める声が高まっている。戦時下の性暴力被害者に対する裁きを求める声が高まっている。

第二次大戦後、戦時下の性暴力被害者に対する裁きを求める声が高まっている。戦時下の性暴力被害者に対する裁きを求める声が高まっている。戦時下の性暴力被害者に対する裁きを求める声が高まっている。

第二次大戦後、戦時下の性暴力被害者に対する裁きを求める声が高まっている。戦時下の性暴力被害者に対する裁きを求める声が高まっている。戦時下の性暴力被害者に対する裁きを求める声が高まっている。

第二次大戦後、戦時下の性暴力被害者に対する裁きを求める声が高まっている。戦時下の性暴力被害者に対する裁きを求める声が高まっている。戦時下の性暴力被害者に対する裁きを求める声が高まっている。

第二次大戦後、戦時下の性暴力被害者に対する裁きを求める声が高まっている。戦時下の性暴力被害者に対する裁きを求める声が高まっている。戦時下の性暴力被害者に対する裁きを求める声が高まっている。